

## IV-5

豊橋市民病院における t(4;14)を有する骨髄腫 9 症例に関する検討

足立達哉、鈴木弘太郎、澤本晶代、倉橋信悟、杉浦 勇

豊橋市民病院 血液・腫瘍内科

【目的】予後不良とされる t(4;14)を有する多発性骨髄腫を 9 例経験したので臨床像・治療効果・予後などを報告する。【方法】1998 年 4 月から 2007 年 7 月までに経験した多発性骨髄腫 182 例中の 76 例について、IgH/FGFR3 をプローベに t(4;14)の有無を検討した。【結果】9 例(11.8%)に t(4;14)を認めた。(患者背景)初診時年齢は 39-84 歳(中央値 67 歳)、性別は男性 3 例、女性 6 例、M 蛋白は IgG 型 3 例、IgA 型 6 例であった。全員が del(13q)(FISH 法 8 例、G 分染法 1 例)、1 例が del(17p)を合併した。(初診時病期)ISS は 1 期 2 例、2 期 4 例、3 期 3 例であった。(治療)3 例に自家末梢血幹細胞移植を施行したが 3-5 ヶ月で再燃した。5 例に Bortezomib を投与したが 1 例は PD であった。2 例が PR となったが 2-5 コースで PD となった。Thalidomide を 4 例に使用したが 2-9 ヶ月で PD となった。(予後)現在 9 例中 5 例が死亡(原病死 4 例、感染症死 1 例)した。50%生存期間は 29.1 ヶ月であり、t(4;14)を持たない 68 症例の 76.7 ヶ月に比べ有意に(p=0.02)短かった。6 年 9 ヶ月の長期生存者を 1 名認めた。【考案】t(4;14)症例は自家移植でも予後不良だが、長期生存者も認める。Bortezomib の延命効果も示唆されている。診断を確実にし新規薬剤の導入、タンデム移植を含めた治療効果を評価する必要性がある。